



IBJ* 防除情報 第64号

(*Ishihara Bioscience Japan=石原バイオサイエンスの略)



いまどきの防除

(病害虫の発生予察と薬剤による防除対策)

●農水省は、5月24日に向こう1ヶ月の主要病害虫発生予報を発表しました。その中から主な作物を対象に、発生が「多い」と発表された病害虫とその地域及び防除農薬(弊社の推奨農薬)を一表に纏めましたので、推進のご参考にして下さい。(特記以外の使用方法は希釈液散布)

| 作物別 | 病害虫名 | 発生が「多い」地域 | 防除農薬(当社推奨農薬) | | |
|----------|----------|-----------|---------------------|--|------------------------|
| 水稲 | イネ縞葉枯病 | 群馬、埼玉 | — | | |
| | イネミズゾウムシ | 秋田、佐賀 | MR.ジョーカー粉剤DL、ガゼット粒剤 | | |
| | いもち病 | 埼玉、佐賀 | — | | |
| 野菜 | 野菜共通 | アブラムシ類 | 北関東、東海、中国 | ウララDF、テルスター水和剤、同フロアブル | |
| | | アザミウマ類 | 甲信、北陸、東海、九州 | ウララDF、アタブロン乳剤、テルスター水和剤 | |
| | いちご | ハダニ類 | 南東北、南関東、北九州 | アカリタッチ乳剤、ネマトリンエース粒剤※、チリガブリ※ | |
| | きゅうり | うどんこ病 | 関東 | プロパティフロアブル、ラミック顆粒水和剤、トリフミン水和剤、同乳剤、カリグリーン、アカリタッチ乳剤、ドーシャスフロアブル | |
| | | べと病 | 関東、東海、九州 | ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブル | |
| | たまねぎ | べと病 | 東海、近畿、中国、四国、北九州 | ランマンフロアブル、ドーシャスフロアブル、フロンサイドSC、同水和剤 | |
| | トマト | 灰色かび病 | 九州 | カリグリーン | |
| | | コナジラミ類 | 東海、北九州 | ウララDF、アタブロン乳剤 | |
| | 果樹 | かんきつ | ミカンハダニ | 東海、北九州、沖縄 | アカリタッチ乳剤、フロンサイドSC、同水和剤 |
| | | なし | 黒星病 | 北東北、東海、九州 | トリフミン水和剤、フロンサイドSC、同水和剤 |
| ナシヒメシンクイ | | | 南関東、北陸 | テルスターフロアブル、同水和剤 | |
| もも | | せん孔細菌病 | 南東北 | — | |
| 茶 | カンザワハダニ | 北九州 | テルスターフロアブル、同水和剤 | | |

注) 表中の地域については、その地域全域で発生がみられるものではありません。

* ネマトリンエース粒剤、チリガブリは、使用時期、使用方法を確認して御使用下さい。

IBJの新農薬 (適用拡大を含む)



●2016年5月14日～6月10日までの間に登録された弊社の新農薬(適用拡大を含む)は、ございません。引き続き、弊社製品を御愛顧を賜ますよう、宜しく御願ひ致します。

製品の使用方法等、詳しくは当社支店まで。



水田の難防除雑草

水稲栽培の規模拡大に伴い、省力的な雑草防除法として一発処理除草剤の普及が顕著となりました。その結果、塊茎などで増殖する繁殖力の強い多年生雑草が取りこぼされ、防除が困難な「難防除雑草」とされるようになりました。

これを踏まえ、今回の I B J 防除情報は、難防除雑草の生態と当該雑草に有効な当社除草剤を特集致しました。

本内容は、「石原の原色雑草カード補完第3版」に基づいて作成しています。

1. 水田難防除雑草の生態

★下表に、「難防除雑草」の主要草種であるオモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、エゾノサヤヌカグサに加え、ミズアオイ、キシウスズメノヒエについて整理しました。

(一年生、越年生は生育期間、多年生は成長期間として区別し、生育時期、花期などは中部地域を標準としています。)

| 草種名 | 成長期間 | 繁殖 | 生態 | 写真 |
|------------------------|------------|------------------|---|----|
| オモダカ (多年生) | 5月 ～11月 | 塊茎・ 種子 | <ul style="list-style-type: none"> ・初めの3～4枚の葉は細長い線形ですが、6～8葉になるとへら状の葉が出ます。 ・成植物の葉は、長い葉柄が有り、その先に矢じり形で3片からなる大きな葉をつけます。 ・秋に地下茎の先に50～150個の塊茎をつくります。 | |
| クログワイ (多年生) | 6月 ～11月 | 塊茎 | <ul style="list-style-type: none"> ・発生深度が深く、発生期間も長期にわたります。 ・細い針金状の茎が発生し、続いて中空の太い茎に変わります。茎は分けつして株になり、直立します。高さは40～70cm、円柱状で中空、2cm～4cm間隔の隔膜で仕切られています。(この為、しごととプチプチ音がします。) ・秋に、茎の先に細長い円柱状の淡緑褐色をした小穂をつけます。又、地下茎の先に多数の塊茎をつくります。 | |
| コウキヤガラ (多年生) | 5月 ～10月 | 地下茎 | <ul style="list-style-type: none"> ・茎は3稜形で単生し、基部は肥大し直径2～3cmの塊茎となります。 ・長い地下茎を伸ばし、先に芽を出して増えます。 ・葉は細長い線形で、夏～秋に、茎の先に褐色で卵状楕円形の小穂をつけます。 | |
| シズイ (多年生) | 5月 ～10月 | 塊茎 | <ul style="list-style-type: none"> ・線形葉が出、本葉3～5葉期に花茎が抽出します。 ・成葉は三稜形で、ミズガヤツリに似ており、茎も3稜形で、高さ50～90cm前後となります。 ・夏に葉先に小穂をつけ、夏～秋にかけて地下茎の先に多数の塊茎をつくります。 | |
| エゾノサヤ ヌカグサ (多年生) | 5月 ～10月 | 種子・ 根茎株 基部 | <ul style="list-style-type: none"> ・茎は叢生し、基部は横に這い、節々からほふく茎を伸ばして拡がります。 ・全体がサヤヌカグサより大きく、葉の縁に鋸歯が有ってざらつきます。 ・9月～10月に茎の先に円錐花序をつけます。 | |
| ミズアオイ (一年生) | 5月 ～10月 | 種子 | <ul style="list-style-type: none"> ・水田、溝、沼に発生します。コナギに似ていますが、コナギより全体に大型です。 ・葉柄は20cm内外と長い、茎の葉の柄は短いです。 ・8月～10月に、茎上部に葉より高く花枝を出し、青紫色の花を穂状につけます。 | |
| キシウ スズメノヒエ (多年生) | 4月 ～11月 | 地下茎 | <ul style="list-style-type: none"> ・春に地下茎や稈の基部の節々から発芽し、茎は四方に拡がり、節々から根を出します。(耕起等で切断されても、その切片の節々から発芽、発根する為、生息域を拡げる結果になります。) ・普通は地面を横に這って地表を覆いますが、密生すると斜めに立ち上がります。茎は丈夫で、毛が無く、滑らかです。 ・葉は互生し、線形で先が尖ります。無毛で、質は柔らかです。 ・7月～8月に茎の先に2個の対立した穂軸からなる二又の穂を出すのが特徴です。 | |



水田難防除雑草に有効な当社の薬剤

★対象草種別に、登録取得薬剤の製品名を掲載しています。

各水田難防除雑草に対する使用時期は最大葉齢を記載しております。
使用時期（雑草葉齢も含む）、適用土壌、適用地帯、使用方法等詳細につきましては、
製品ラベル、技術関連資料、ホームページ等に記載の登録使用基準に従い、御使用ください。

| | 使用時期 | | | | |
|--|----------------|-----------------|----------------------|-----------------|-----------|
| | オモダカ | クログワイ | コウキヤガラ | シズイ | エゾノサヤヌカグサ |
| センイチM X 1 扣粒剤 フルパワー-M X 1 扣粒剤 | 発生始期まで | 草丈 1 0 cmま で | 草丈 1 0 cmま で | 草丈 3 cmまで | 2 葉期まで |
| フルチャージ 1 キロ粒剤、ジャンボ | 矢じり葉抽出期 まで | 草丈 1 0 cmま で | 発生始期まで | 草丈 3 cmまで | — |
| ナイスミドル 1 キロ粒剤 | 矢じり葉抽出期 まで | 草丈 1 0 cmま で | 発生始期まで | 草丈 1 5 cm まで | 2 葉期まで |
| フルイニング 1 キロ粒剤、ジャンボ ジャイブ 1 キロ粒剤、ジャンボ | 矢じり葉抽出期 まで | 草丈 1 0 cmま で | 発生始期まで | 草丈 3 cmまで | — |
| スケダチ 1 キロ粒剤 | — | 草丈 1 0 cmま で | 草丈 1 0 cmま で | 草丈 1 0 cm まで | — |
| ヒエクッパ 1 キロ粒剤 | — | 草丈 1 5 cmま で | 草丈 1 5 cmま で | 草丈 1 5 cm まで | — |
| アンカーマンDF (落水散布またはごく浅く 湛水して散布した場合) | 草丈 3 0 cmまで | 草丈 3 0 cmま で | 草丈 3 0 cmま で | 草丈 3 0 cm まで | — |
| トビキリジャンボ | — | — | 発生始期まで | — | 2 葉期まで |
| プレキープ 1 扣粒剤 | 発生前～ 発生始期まで | — | — | — | — |
| グラスジン Mナトリウム液剤 | — | 増殖盛期まで | 草丈 4 0 ~ 6 0 cm程度 | — | — |
| グラスジン Mナトリウム粒剤 | — | — | — | 草丈 2 0 cm まで | — |

注：スケダチ 1 キロ粒剤は、S U 抵抗性雑草に対しては効果が期待できません。

フルチャージ 1 キロ粒剤・同ジャンボ剤は、S U 抵抗性一年生広葉雑草に対する効果を有しますが、SU抵抗性多年生雑草には効果が期待できません。



農薬の正しい使い方

農薬の適正使用に関しましては、依然として農薬による事故や不適正使用の事例が報告されています。このため、農林水産省は、厚生労働省、環境省及び都道府県と共同で、農薬の安全かつ適正な使用や環境への影響に配慮した農薬使用を推進するため、「農薬危害防止運動」を本年度も6月～8月にかけて実施します。

弊社としましてもその趣旨に賛同し、本防除情報をご覧のみなさまに広くお知らせしていきたいと考えています。

農林水産省HP「農薬の適正な使用」のページより (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html)

1. 農薬による危害の防止

① 農薬を使用される方へ

使用の際はラベルをよく読み、防護装備を着用しましょう

作業時の服装例



農薬を使用される方自身の安全確保のためにも、多量にさらされたりしないよう、**農薬を使用する際は、ラベルを確認していただき、農薬用マスク等の防護装備を着用してください。**

農地の宅地化がすすんだりしており、住宅地等の周辺では、住民の方々に配慮した防除が益々重要となってきています。耕種的防除や物理的防除もさることながら、農薬を使用する場合には、**ドリフト防止対策の徹底や十分な時間的余裕をもった周辺住民等への事前周知が必要になっていきます。**



強い風が吹いていませんか。風向きに注意して散布液を浴びないように注意。

農水省のホームページには農薬使用時に徹底していただきたい「住宅地等における農薬使用について」が掲載されています。http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/jutakuti/index.html

また、土壌くん蒸剤使用後の管理不足が原因で周辺の方が被害に遭う事があります。被害事例の中には、全く被覆をしなかったことが原因の事例も毎年数件見られます。**土壌くん蒸剤使用後は直ちにビニールなど適切な資材で完全に被覆するよう徹底を御願います。**

②誤飲等による被害の防止

農薬は食品等と分けて鍵のかかる場所に保管しましょう



農薬をペットボトル、ガラス瓶など飲食品の空き容器等に移し替えて保管していたために、家族の方などが誤飲した事例が毎年多く報告されています。

農薬の誤飲や誤使用などによる被害を防ぐため、**農薬は食品等と分けて鍵のかかる場所に保管し、薬液の調製や散布作業中も放置することなく、関係者以外が触れないように管理の徹底を御願います。**

2. 残留基準値超過の防止

①農薬使用基準の遵守

農薬の適正使用に関しましては、これまでも「農薬適正使用の徹底について」（平成22年12月15日付け農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）に基づき、都道府県や関係団体と連携して指導がなされてきておりますが、思い込みなどでこれらの記載事項を守らずに使用したことによる残留基準値超過が報告されています。**使い慣れた農薬であっても、御使用の際には必ずラベルを見てご確認の上、使用方法、注意事項、最終有効年月等を守ってください。**

新規就農者や市民農園の利用者等、農薬に不慣れな方々の使用によるトラブルに関する情報も寄せられています。指導者の皆様には、農薬の使用の機会が増えるこの時期に、これまでに指導を受けたことのない方や一般の方にもご指導いただきますようお願いいたします。



②飛散防止対策及び防除器具の洗浄の徹底

残留基準値超過の防止には、飛散防止対策が重要となります。隣接する圃場や同じハウス内で別の作物が栽培されている際は、飛散の少ない剤型の選択や飛散低減ノズルの利用等に努めてください。

特に、使用しようとする農薬に隣接する作物への適用がないときは、使用する農薬の種類を見直す等の対応が必要となります。さらに、**防除器具の洗浄不足が原因で、タンク、ホース等に残った農薬が別の作物に付着して基準値を超過したと考えられる事例もあるため、使用前後の念入りな洗浄に努めてください。**

3. 環境等への配慮

①農薬の河川等への流出の防止



農薬の河川等への流出が原因の一つと考えられる水質汚濁や水産動植物の被害が報告されています。水田において農薬を使用する際は、畦畔の手入れをしっかりと行いラベルに記載された止水期間を守りましょう。このような取組は、農薬の効果を十分発揮するためにも重要となります。また、不要となった農薬や空容器は、廃棄物処理業者に依頼するなどして適切に処理し、絶対に河川等に投棄しないでください。容器や防除器具の洗浄液も、直接排水溝や河川等に流さないようにしましょう。

②ミツバチの農薬被害の防止

農薬の使用によるミツバチの被害を防ぐため、ミツバチの放飼場所や放飼時期に十分留意した農薬使用に努めてください。養蜂が行われている地域では、農薬をお使いになる方と養蜂家との間で事前に農薬の散布や巣箱の設置状況に関して情報交換を密に行うなど、ミツバチ被害の防止に向けた関係者間の連携をお願いします。



農薬の使用による事故・被害を未然に防止することができるよう、この運動の期間だけでなく、年間を通じてみなさまのご協力をお願いします。

本号は農水省農産安全管理課農薬対策室によります「平成28年度農薬危害防止運動に向けての留意事項等について」に基づいて作成しております。

平成26年度まで5ヶ年の農薬使用による事故及び被害の発生状況 (農林水産省資料より)

1. 人に対する事故

(件 (人))

| 年度 | | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|----|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| 区分 | | | | | | |
| 死亡 | 散布中 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | 誤用 | 3 (3) | 8 (8) | 2 (2) | 4 (4) | 5 (5) |
| | 小計 | 3 (3) | 8 (8) | 2 (2) | 4 (4) | 5 (5) |
| 中毒 | 散布中 | 11 (21) | 10 (18) | 18 (36) | 11 (12) | 11 (22) |
| | 誤用 | 24 (28) | 18 (22) | 18 (22) | 13 (18) | 13 (13) |
| | 小計 | 35 (49) | 28 (40) | 36 (58) | 24 (30) | 24 (35) |

(注) 発生時の状況が不明のものは「誤用」として集計しています。

区分欄の「誤用」とは、誤飲、誤食等を指し、自他殺は含みません。散布中以外の事故を含みます。

(原因別)

(件 (人))

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 原因 | | | | | |
| マスク、メガネ、服装等装備不十分 | 3 (3) | 7 (12) | 5 (5) | 3 (3) | 3 (3) |
| 使用時に注意を怠ったため本人が暴露 | 1 (1) | 1 (1) | 5 (5) | 0 (0) | 2 (2) |
| 長時間散布や不健康状態での散布 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 防除機の故障、操作ミスによるもの | 3 (4) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| 散布農薬の飛散によるもの | 2 (2) | 0 (0) | 1 (1) | 4 (4) | 1 (1) |
| 農薬使用後の作業管理不良 | 2 (11) | 2 (5) | 7 (25) | 4 (5) | 5 (16) |
| 保管管理不良、泥酔等による誤飲誤食 | 12 (12) | 16 (17) | 16 (16) | 11 (11) | 14 (14) |
| 薬液運搬中の容器破損、転倒等 | 1 (4) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| その他 | 1 (1) | 2 (5) | 1 (5) | 2 (7) | 1 (1) |
| 原因不明 | 13 (14) | 8 (8) | 3 (3) | 4 (4) | 3 (3) |
| 計 | 38 (52) | 36 (48) | 38 (60) | 28 (34) | 29 (40) |

2. 農作物、家畜等に対する被害

(件)

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|------|----|----|----|----|----|
| 被害対象 | | | | | |
| 農作物 | 7 | 8 | 14 | 10 | 11 |
| 家畜 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 蚕 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 蜜蜂 | 6 | 8 | 11 | -※ | -※ |
| 魚類 | 4 | 10 | 6 | 5 | 2 |
| 計 | 17 | 26 | 31 | 15 | 13 |

3. 自動車、建築物等構造物に対する被害

(件)

| 年度 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 |
|------|----|----|----|----|----|
| 被害対象 | | | | | |
| 自動車 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 建築物 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 |

※農薬によるミツバチの被害については本調査とは別に、平成25年5月より新たな調査が開始されているため、本調査の調査対象から除外されています。

殺線虫剤

農林水産省登録
第20265号

ネマトリン[®]エース[®]粒剤

(愛称:ネマエース)

有効成分:ホスチアゼート…1.5%

©:石原産業(株)の登録商標

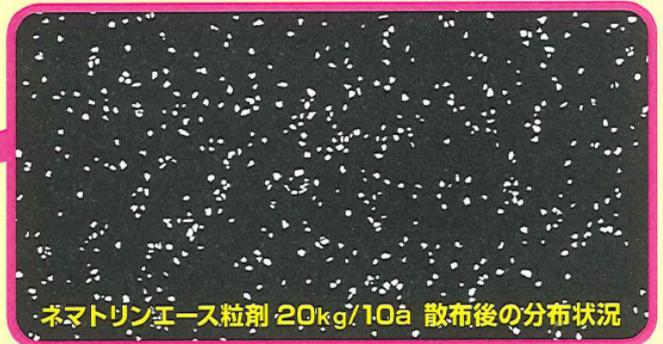
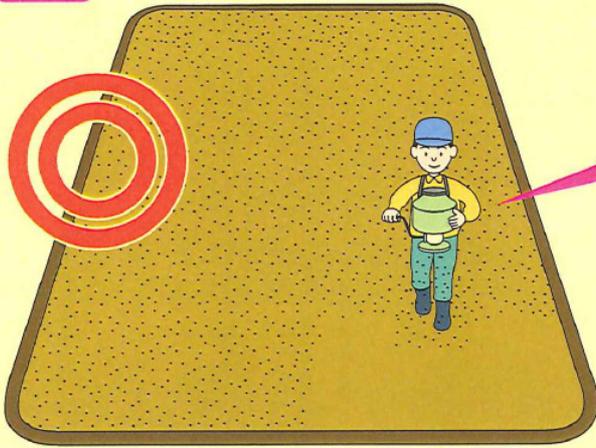
人畜毒性:普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

使用について3つのお願い

使用方法が全面土壌混和の場合

1

均一に薬剤を散布しましょう。



ネマトリンエース粒剤 20kg/10a 散布後の分布状況

は種、定植前に土壌全面に均一に散布してください。

- 効果が最も安定します。
- 薬害リスクが軽減できます。

2

十分に土壌を混和しましょう。

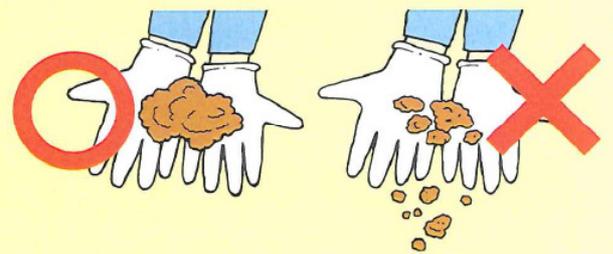
散布後、表層から20cm程度の深さまで、混和ムラがないように丁寧に土壌と混和してください。一般的に、土壌中のセンチュウは、地表面から10~20cmの層に多く分布しています。

均一な混和がセンチュウ防除効果を高める上でのポイント!

できれば2回混和をお勧めします。



混和時の過剰な水分は、混和ムラを起こす原因となります。



土壌を握ってくずれない程度の水分量が目安です。作物の生育に好適な範囲で管理してください。

3

使用方法を守りましょう。

※は種溝・植溝、すじ条、作条・畦処理、植穴処理などは決してしないでください。

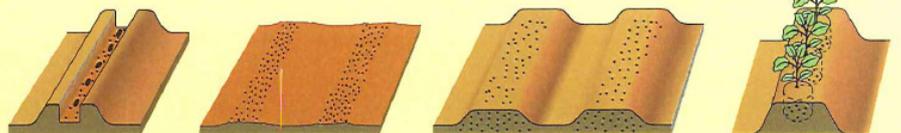
《但し、いちじく(樹冠下処理)、ごぼう(は種溝土壌混和)、らっきょう(植溝土壌混和)、かんしょ(作条土壌混和)では使用方法が異なります》

は種溝・植溝

すじ条

作条・畦処理

植え穴



登録内容を遵守して使用してください。

フロンサイド® scの使用に際してのお願い

ご使用の前にぜひお読みください。

- ラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

1. 散布の前に

- ①次のような人は、作業に加わらないでください。
フルアジナムを含む農薬、または他の農薬でかぶれたことがある人* / 疲れている人
睡眠不足の人 / 体力、特に肝機能が衰えている人 / 特異体質の人* (アレルギー体質、
かぶれやすい体質など) / 妊娠、生理中の女性 / 手足などに外傷がある人

*印の人は農作業以外で入る場合でも、施用した作物などとの接触を
さけてください。



- ②容器のラベルをよく読んでください。
- ③薬剤調製時及び散布に当っては、必要な安全装備をしてください。

不浸透性防除衣 不浸透性手袋 ゴム長靴
帽子 保護メガネ 防護マスク 等

●皮膚が露出した部分には、保護クリームをご使用ください。

- ④剪定、施肥、摘果、除草、袋かけなどの管理作業は、散布の前にすませてください。



2. 散布液の調製に当って

- ①薬剤が直接皮膚に付着したり、眼に入らないように注意してください。
※眼に入った場合はよく水洗し、眼科医の手当てを受けてください。また、皮膚に付着した場合は石けんでよく洗い落としてください。
- ②薬液調製前に容器をよく振ってください。(効果)

3. 散布作業に当って

- ①散布する時は風向きなどにも十分注意し、帽子、保護メガネ、防護マスク、不浸透性防除衣、不浸透性手袋、ゴム長靴などを着用し、散布液を浴びないように注意してください。また、露出部には保護クリームを使用してください。
- ②高温、多湿時の長時間の散布はさけてください。
- ③施設内では使用しないでください。
- ④散布後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ⑤作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。



4. 散布後の圃場に入園するに当って

- ①降雨時または樹木が濡れている場合には、作業は行なわないでください。
- ②散布後の入園は、できる限り期間を開けてください。特に摘果、袋かけのような作業を行う果樹では、少なくとも7～10日間の期間を開けてください。
- ③散布後の入園の際も、皮膚が直接作物に触れないよう長ズボン・長袖の作業衣、帽子、手袋、保護メガネ、農業用マスクを着用して、皮膚の露出部がないようにしてください。また、露出部には保護クリームを使用してください。
- ④高温、多湿時の長時間の散布及び作業はさけてください。
- ⑤作業時に使用したタオル等で汗を拭かないでください。
- ⑥散布した後及び摘果等のために散布後入園し作業した後は、直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。また、着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。
- ⑦苗床で本剤を使用し、その苗を採苗、定植する場合には、必ず手袋を着用して作業を行い、直接苗に触れないように注意してください。

弊社では、圃場の土壌を御送付頂き、その土壌中のセンチュウ量を測定、報告し、防除計画の御参考にして頂く無料サービスを継続実施しております。



ISK 石原バイオサイエンス株式会社 本社 開発普及部

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号

TEL 03-5844-6320 FAX03-3812-6548

ホームページ アドレス <http://ibj.iskweb.co.jp>

センチュウ検定
無料キャンペーン
実施中